低炭素社会実現に取り組む私学 ⑩
――文化学園大学

新宿副都心の甲州街道沿いに新都心キャンパスを持つ文化学園大学（大沼淳理事長・学長）では、CO2削減と電力使用量削減でさまざまな取り組みを行った。この取り組みの主な対象になったのは、平成十年に建てられた地下二階、地上二十階、延べ面積五万七千平方メートルのABC館である。

高層校舎にも換気と排煙の窓が設けられている

もともと文化学園の文化学園大学（以下大学という）と文化服装学院（以下学院という）と文化ファッション大学院大学（以下大学院大学という）は実習が多く、アイロンやミシンの使用が多い。学生が一斉にアイロンを使えば教室内の温度と湿度が急激に上がる。このため空調と換気は重要だ。さらにABC館は建設当初から、延べ床面積の増加に伴う光熱水費の増加が懸念された。そこで、採用したのが換気窓である。高層ビルの窓は通常、はめ殺しだ。しかしABC館は、全教室のすべての窓の上部が排煙窓として開き、下部にも換気窓を設けてある。ただし落下防止のために換気窓には金属製の格子を付けた。これによって自然換気ができ、冷暖房の稼働時間を大幅に減らすことができた。

高層ビルに自然換気窓
大学と学院等が交代で休校

空調の熱源は、普通、安全率を見込んで設計されているため、ABC館は竣工当初から全負荷運転はしていない。

平成二十一年までの省エネ対策としては、換気窓を利用して中間期の自然エネルギーを活用し、照明器具は高効率機器を採用、エレベーターはスキップ運転を行い、トイレ節水装置を導入、廊下やエレベーターホールのハロゲンランプを消灯、熱源機器のインバーターと台数制御の導入、窓サッシへの高性能熱線反射ガラスの採用、共用部照明の集中監視および人感センサー導入、室内温度の上下限監視とカリキュラム運転制御、恒温恒湿空調機器熱源の冬季自然管理法では室内のCO2センサーによる制御だった。ビルは難しいと悩んだが、都の職員の「今のビルは無駄だらけ」という発想に、考え方が変わったと話す。

廊下の照度については、人感センサーによって合理的に照度の確保に努めている。

平成二十三年度の今、東日本大震災の影響で、夏のピーク電力に対して一五%削減が求められている。同大学では、さらに六月から電球の間引きをスタートし、蛍光灯四百本を間引きした。利用時間帯の長い場所の照明器具は、LEDに替えた。清掃員や警備員等の管理担当者には、「学生がいなければ照明も空調も消していい」と消し忘れ等の対策を行っている。

９月24日まで開催中の企画展「暑さと衣服」のポスター

また、教職員も協力的だ。

六月二十七日から九月末までは、学園内の大学（A館）と学院（B館）を交代で休校にし、大学院大学（I館）も休校を設けている。これによって、新都心キャンパスのピーク電力も大幅に削減することができる。交代で休校にするのは、空調だ。

温度設定二十八度では、実習室でアイロン等を使えば室内の湿度・温度が急上昇して教育環境が悪化してしまうためだ。安全を確保するには冷房を強めなくてはならず、それでは一五%の削減は難しいため、交代で休校にした。

授業時数の不足は、レポート提出や成果物の提出等で補うなど対策に苦慮している。八月の夏期休暇中は、職員もお盆の期間を中心に十日間ぐらいは一斉に休み、全館ロックアウトする。

教育の特徴としては、文化学園の服飾博物館で、七月五日から企画展「暑さと衣服」を開催し、世界中の民族衣装から夏を涼しく過ごすための知恵を展示する。同時に文化学園大学で研究している新素材も展示する予定だ。

全国私立看護高校協会総会

教員確保等が課題に
23年度事業計画等も決定

全国私立看護高等学校協会（会長＝佐藤仁作・仁愛高校長）は、六月二十日、東京・市ヶ谷の私学会館で総会を開き、平成二十三年度事業計画、同予算を決めたほか、二十二年度の事業報告・決算報告を承認した。この日は指導助言者として文部科学省の福村知加子・児童生徒課産業教育振興室教科調査官が出席、看護に関する学科を取り巻く情勢と新教育課程編成上の課題について講演した。

あいさつする佐藤会長と福村教科調査官（右）

福村氏は高校と専攻科の五年一貫教育がほかの養成機関とそん色がないと見られるよう、厚生労働省が発表した看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標について考えてほしいなどと語った。新年度の事業計画は前年度を踏襲し、私立高等学校の看護教育の振興、発展に関する事業、進路対策、助成対策、実態調査の実施等が柱。福村教科調査官を交えて行われた研究協議や情報交換では、実習病院や高校の看護教員の確保の難しさなどが参加者から次々と報告された。特に高校の看護教員に関しては、大学も対応が異なることから、看護教員について国から、看護教員に関する学生が検定試験を行ってほしいとの声も聞かれた。このほか五年一貫課程卒業者に対する大学への編入学実現については目立った進展が見られていないことなども報告された。

全国私学退職金団体連合会総会

〝退職資金給付事業は公益目的〟
非課税措置の継続を要請へ

全国私学退職金団体連合会（会長＝森本純生・財団法人群馬県私学振興会理事長）は、七月四日、東京・市ヶ谷の私学会館で平成二十三年度総会を開き、平成二十二年度事業報告、同決算報告を承認するとともに、平成二十三年度の事業計画、同予算を決めた。新年度の事業計画は前年度を踏襲して私学退職金団体の振興、実態調査の実施・調査報告書の刊行、研修事業などが柱。公益法人制度改革に関しては、各都道府県私学退職金団体が行う退職資金給付事業は公益目的事業としてみなされ、公益認定されることが求められているが、事務負担が大きいなど公益認定のハードルが高いため、一般社団法人や一般財団法人になっても従前通り、保有資産への利子課税については免除されるよう、政府等に要望していく方針。実際、類似団体がすでに非課税措置を受けていることもあり免税措置の実現を求めていく。全退連事務局がこのほど行った調査では、全国で「公益認定を目指す」退職金団体は八団体、「公益認定を第一に考えているが、一般社団・財団法人への移行認可を考えている」団体が八団体から十八団体に減少、「一般社団・財団法人への移行認可は視野に入れている」団体が昨年度の二十三団体から十八団体へと増えていた。

全退連の森本会長

総会内では、東京、大阪、千葉の三都府県の団体から公益法人改革への対応状況等が報告された。

日私教研

私学経営研修会を開催
講演や意見交換、学校視察など通じて
今後の私学の在り様研究討議

財団法人日本私学教育研究所（吉田晋理事長、中川武夫所長）は六月二・三の両日、神戸市のANAクラウンプラザホテル神戸で私学経営研修会を開催した。

「混迷の時代に期待される教育と私立学校―私学に求められる教育力・経営力・教員力の強化―」を研究のねらいとした今年の研修会には、全国から私立中学高校の理事長、校長、事務局長ら約百九十人が参加、パネル討議やテーマ別の意見交換、学校視察等を通じて、参加者一人一人が今後の私立学校の在り様などを考えた。

初日の開会式には井戸敏三・兵庫県知事、矢田立郎・神戸市長も駆つけ、私学教育への強い期待感を表明した。

続いて、同研究所理事長で日本私立中学高等学校連合会の吉田晋会長が「最近の私学を取り巻く諸情勢」について講演した。東日本大震災の被災校に対する国の支援に公私間で格差があること、その是正に取り組んだ経緯や、教員免許制度等改革では教員の育成・資質向上に関しては私立学校に任せてほしいと要望していることなどを報告、子供たちの教育が私学の教育の原点と語った。

その後、「公共性の教育―教育の受益者は誰か」の演題で内田樹・神戸女学院大学名誉教授が基調講演し、私立中学高校に関しては、これを教えたいとの教育理念の旗を掲げ、市場のニーズを追うのではなく、選ばれないリスクをあえて取り、賛同者を増やしていく努力を行っていく大切さや、大真面目に教育の理想を語っていく必要性などを力説した。

初日午後には日私中高連の實吉幹夫・教育制度委員長が「教育制度改革の動向と私学のあり方」と題して、同連合会が行った高校無償化・就学支援金に関する調査結果や東日本大震災への対応などを報告。続いて地元・兵庫県企画県民部管理局の清澤貞一教育課長が「兵庫の私学振興」と題して講演し、歴史を持つ法人が多く、バランスの取れた私学振興に努めたいなどと語った。

私学経営研修会の冒頭、あいさつする吉田理事長

その後はパネルディスカッションが行われた（3面に概要）。

二日目午前は、同研究所の中川所長が、「教育改革と私立学校―日私教研の使命」と題して講演し、広報機能の充実・強化を図りつつあり、社会に向けても積極的に情報発信していく方針などを説明した。

続いて参加者が十人ほどの小グループに分かれ、学校改革や生徒募集、特色教育、教員育成・人材育成、高校教育改革、学校間連携（中高一貫／高大接続・連携）、教育課程（新学習指導要領）、学校評価といった問題について意見交換、情報交換した。今年のグループ討議は昼食時からの動向と私学のあり方」援金に関する調査結果や同じ顔ぶれのため従来にも増して積極的な意見交換・情報交換に繋がった。

意見交換会の最後に、私学経営研修会を担当する同研究所私学経営専門委員長でもある實吉氏が、来年は水戸市で開催すること、同研究所の研修会には多くの先生方に参加していただき教員力を高めてほしいと語った。二日目午後には参加者がバス三台に分乗し、神戸星城高校、神戸海星女子学院中学高校、灘中学高校を訪れ、授業などを見学した。

大学教育情報公表等協力者会議

教員の意識改革で教育の質向上など
広島市立と筑波大から具体的実践例聴取

「大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議」（座長＝鈴木典比古・国際基督教大学学長）は六月二十七日、東京・千代田区の学術総合センターで第二回会議を開き、広島市立大学と筑波大学から、教育情報公表への具体的取り組みについてヒアリングを行った。

広島市立大では、教員の意識改革による教育の質の向上を目指すとともに、公立大学として市民への説明責任を果たすという観点から、教員の経歴や社会活動などの情報は「教員自身が説明責任を果たし、個々のPDCAサイクルを回すことが、大学全体のPDCAサイクルにつながる」と、情報公開による自己点検・評価の重要性を指摘した。

筑波大学では、学生が修得すべき知識や能力に関する情報として、学士課程で行われている教育の目標、教育内容・方法、達成すべき水準、質保証などを記載した「筑波スタンダード」を学内外に公開している。

また、「筑波大学オープンコースウェア」として、授業資料をインターネットで公開。研究者情報システム等を活用して、教員の業績評価を行い、評価結果を教員にフィードバックするとともに学外にも公表する試みにも取り組んでいる。

情報発信の方法について、山田信博学長は「分かりやすい形で〝見える化〟を図るとともに、大学からの一方的な公開ではなく、社会から作用・反作用が起こる形で公開していく必要がある」と述べた。

Otsuka
生徒たちの安心のために
災害対応バランス栄養食
BALANCED FOOD
CalorieMate
Long Life 3years
長期保存可能 | バランス栄養食 | チョコレート味
「もしもの時」の非常食 カロリーメイト ロングライフ
① 備蓄・保存に適した賞味期限3年のカロリーメイトです。
② 栄養バランスに優れています。
③ 小さく軽い配りやすい商品形態で、少ないスペースで効率の良い備蓄ができます。
④ お年寄りや小さなお子様にも食べやすい商品です。
⑤ 耐水性に優れたアルミ包装です。
⑥ 信頼・安心のブランドです。
バランス栄養食 カロリーメイト ロングライフ
新入生の入学時に、人数分を備蓄。無事故無災害の場合は、卒業前に学校行事等での配布が可能です。
商品に関するお問い合わせ：フリーダイヤル 0120-550-708（お客様相談室へ）　大塚製薬

『謝恩会・卒業記念パーティープラン』ご予約承ります
特典満載！ お料理・お飲み物・室料込み お一人様6,000円より
BANQUET 宴会・会議　ACCOMMODATION 宿泊　RESTAURANT レストラン

アルカディア市ヶ谷（私学会館）
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL 03-3261-9921（代表）
FAX 03-3261-7760　〒102-0073

「習慣病」になったニッポンの大学
18歳主義・卒業主義・親負担主義からの解放
矢野眞和著
大学の「常識」をひっくり返せ！
・新入生が若者ばかりなのは当たり前？（18歳主義）
・学生も大学も卒業ばかりを重視するのは当たり前？（卒業主義）
・高い授業料を親が負担しているのは当たり前？（親負担主義）
いいえ！この3つの当たり前こそ、ニッポンの大学をダメにしている「習慣病」！！
大学が習慣病にかかった背景から、その病を治すための解決策「授業料タダ論」までをわかりやすく解説した、未来の大学像を探る画期的1冊！
●定価 1,575円
日本図書センター　〒112-0012 東京都文京区大塚3-8-2　TEL03-3947-9387　FAX03-3947-1774　http://www.nihontosho.co.jp　【買絡例込】　書籍内容見本

混迷の時代に期待される教育と私立学校

―私学に求められる教育力・経営力・教員力の強化―

私学経営研修会

パネルディスカッション

学校の組織力強化

驚きと感動が保護者の共感に

先月の全国私立中学高校「私学経営研修会」のうち、「混迷の時代に期待される教育と私立学校―私学に求められる教育力・経営力・教員力の強化」のテーマで実施されたパネル討議の概要を掲載する。（編集部）

写真左はコーディネーターの野原氏、写真右は左から植村、熊見、鈴木の各氏（６月２日、ＡＮＡクラウンプラザホテル神戸）

野原　いよいよ新学習指導要領に基づく学習が、来年度から中学校で、再来年度から高校で導入されます。大変に中身が増えています。一方で、子どもたちに思考力・判断力・表現力を付ける教育を行うよう言っている。それにわれわれ私学はどう対応したらいいのか。教育力・経営力・教員力という見方をしながら話を進めてまいりたい。

最初に熊見さん、お願いします。

熊見　まず学校の組織力を強化する必要があると思います。教育内容の充実を図るとともに教員の教育力を最大限に引き出しながら、学校の総合的な力である学校力を高め、学校の組織力を強化すること。

二つ目は、生徒を変える力が学校の教育力だと思います。それは、学力の伸長、学習目標の達成、適正な進路選択ができる力を育てる、考える態度や能力を育てる、周りの人と調整できる能力や態度を育てる、進学・就職の実績を上げていくことだと思います。

三つ目は、生徒指導力を充実させ、学校の評価を高めること。生徒に学習意欲と態度を育て、生き方に目覚めさせる、生徒に対して毅然とした態度の教員の採用と育成、そして機動的に組織的な指導体制の充実を図ることが大切だと思います。

また私学としての特色づくりです。建学の精神に基づく教育方針、校風に基づいて教育をしっかりやっていくことだろうと思います。

鈴木　私学の実績というのは、娘さんを預けてくれた保護者の驚きだと思います。ここまでやるのかという驚き、あるいはここまで引き上げてくれるのか、ここまで取り組んでくれるという驚きと感動、それが共感に結びついています。

私学はゴールイメージをしっかりと持たなくてはならない。そのゴールイメージが建学の精神だと考えています。

野原　経営の立場から見て、私学の特色あるいは求められるものは何だと考えられますか。

植村　教育に期待するのは、思考力、人間力です。多くの学校は進学予備校になり、大学は就職予備校化しています。こういう時代ですので、社会的人間として成長していくその基本の部分に私学の独自性を出していただいて、企業も採用すれば社内研修をきちんとして、人間づくり、人づくりをやるべしというのが私の意見です。今、心の病で休職するとか、困難に立ち向かう力がないといったことが増えています。あまりにも受動的な教育を受けて、考える力、生きる力を持つことができないのではないでしょうか。

野原　今の子どもたちに、目標をしっかり持たせる、思考力を持たせるためにできることはなんでしょうか。

熊見　夢が見られる、希望が持てるということ、そのためには自信を持たせることが必要だと思いますので、やればできるということを常に言っています。

野原　今回の学習指導要領ですが、全部やったらパンクするのではないかと思いますが。

熊見　学校の実情・状況に応じてやっていく必要があると思います。やらなくてはいけないことはやって、私学の独自性を出していきたい。

鈴木　以前、未履修問題が起きた時に本校もそこに挙がった。そのことを振り返るだけで五臓六腑が煮えくり返る思いです。学習指導要領については何も言わないと決めました。そうなっているならそれでいきましょう、中身で勝負しましょうと。

野原　かつて学習指導要領の神様といわれた人が、文章をよく読んでみなさい、やらなくてはいけないと書いてあるところと、そうでもないよ、どうでもいいよというふうに書いてあるところとあると言っておられた。学習指導要領は何も全部従う必要はない。私は文部科学省に、間違っているのではないかと言ったことがあります。

私学の教育力についてですが、どこをどう発揮して、何を増やしていったらいいかです。

鈴木　私学の教育力については、やはりスケールの大きさだと思います。われわれのゴールイメージをどこまで持っていくのか。何のために学校をやっていくのかというと、当然、預かっている子どもたちを幸せにするためです。その幸せは、数十年先の社会・日本を見据えて、それに合うカをしっかり付けていくこと、それが私学の教育力ではないかと思います。

野原　植村さんは、私学の教育はどのような姿がいいと思われますか。

植村　あまり型にはめずに、私学として学園の方針を明確にした上で、よく話し合って、独自性を出していくということに尽きると思います。堂々と、うちは建学の精神でこういうふうにやるのだと。信念を持って進んでいくには私学の方がやりやすいだろうと思います。

かと思いますが。

熊見　学校の実情・状況に応じてやっていく必要があると思います。やらなくてはいけないことはやって、私学の独自性を出していきたい。

鈴木　以前、未履修問題が起きた時に本校もそこに挙がった。そのことを振り返るだけで五臓六腑が煮えくり返る思いです。学習指導要領については何も言わないと決めました。そうなっているならそれでいきましょう、中身で勝負しましょうと。

野原　かつて学習指導要領の神様といわれた人が、文章をよく読んでみなさい、やらなくてはいけないと書いてあるところと、そうでもないよ、どうでもいいよというふうに書いてあるところとあると言っておられた。学習指導要領は何も全部従う必要はない。私は文部科学省に、間違っているのではないかと言ったことがあります。

私学の教育力についてですが、どこをどう発揮して、何を増やしていったらいいかです。

鈴木　私学の教育力については、やはりスケールの大きさだと思います。われわれのゴールイメージをどこまで持っていくのか。何のために学校をやっていくのかというと、当然、預かっている子どもたちを幸せにするためです。その幸せは、数十年先の社会・日本を見据えて、それに合うカをしっかり付けていくこと、それが私学の教育力ではないかと思います。

野原　植村さんは、私学の教育はどのような姿がいいと思われますか。

植村　あまり型にはめずに、私学として学園の方針を明確にした上で、よく話し合って、独自性を出していくということに尽きると思います。堂々と、うちは建学の精神でこういうふうにやるのだと。信念を持って進んでいくには私学の方がやりやすいだろうと思います。

（パネリスト）
植村　武雄　小泉製麻株式会社 取締役社長
熊見　一郎　神戸星城高等学校 理事長・校長
鈴木　康之　水戸女子高等学校 理事長・校長
（コーディネーター）
野原　明　文化学園大学杉並中学・高等学校 名誉校長・特別顧問
（順不同・敬称略）

学力上げるには覚悟が必要
マスコミへの露出も大事

野原　私学の経営力についてはいかがですか。

植村　学校法人は持続性・継続性が非常に大事ですから、そこに重点を置く。原資やその他の経営資源を、使いきらないで蓄積していくことだと思います。産業界では最近、選択と集中ということがいわれる。あそこもやっているからうちもやるという発想では絶対に駄目です。明確な学園の運営方針を示して、教師の方々と徹底的に意見交換をして、説得と納得を繰り返して、その関係の中で、一つの方向性を共有する。結局は人です。

熊見　学校が良い評価を得られないと経営もついてこない。

鈴木　うちの学校は専門店だと思っています。ただ、専門店として打ち出せば打ち出すほど受験生が減るかもしれないというジレンマはあります。

野原　やはり受験生をどれだけ集めるか、歩留まりがどれくらいかは私学にとって生命線だと思います。私のいた学校は、生徒の学力レベルに相当幅があったので、私が一定レベル以下は採らないようにしようと言ったところ、先生方は生徒が来なくなると反対でした。しかしそれを実行しました。案の定、一年目は百人、二年目も三年目も百人。それでも変えなかった。そして、四年目には生徒の数が戻り、生徒の質も上がっていました。良い生徒を集めるには、どうしたらいいと思われますか。

熊見　いい教育をやっているという評判を得ないことにはなかなか難しい。学力を上げるためにやるなら、覚悟してやらないといけません。

鈴木　うちの生徒募集は二つキーワードがあって、一つはトップセールス、もう一つはゲリラです。毎週土曜日はオープンスクールで、必ず私が応対をして、それからうちの生徒たちとおしゃべりをしてもらう、そういうプログラムを組んでいます。ゲリラというのは、足を使ってどんどん行く、五月末で地元の全ての中学校と塾も百二十くらい回っています。そのとき大事なことは、預かっている子どもの様子を伝えることです。

野原　企業の立場から、学校がそうしたことを行うのはどう思われますか。

植村　民間企業が進める経営と変わらないと思います。ですから広報が大事で、今のお話に加えて、生徒さん自身の活動の露出が、例えばマスコミに載せてもらえるとか、ボランティアで目立つとかいったことが、もう少しあればいいと思います。

野原　そういう努力をしてもまだまだ私立学校は生徒の質も上がっていました。良い生徒を集めるには、どうしたらいいと思われますか。

熊見　いい教育をやっているという評判を得ないことにはなかなか難しい。学力を上げるためにやるなら、覚悟してやらないといけません。

鈴木　うちの生徒募集は二つキーワードがあって、一つはトップセールス、もう一つはゲリラです。毎週土曜日はオープンスクールで、必ず私が応対をして、それからうちの生徒たちとおしゃべりをしてもらう、そういうプログラムを組んでいます。ゲリラというのは、足を使ってどんどん行く、五月末で地元の全ての中学校と塾も百二十くらい回っています。そのとき大事なことは、預かっている子どもの様子を伝えることです。

野原　企業の立場から、学校がそうしたことを行うのはどう思われますか。

植村　民間企業が進める経営と変わらないと思います。ですから広報が大事で、今のお話に加えて、生徒さん自身の活動の露出が、例えばマスコミに載せてもらえるとか、ボランティアで目立つとかいったことが、もう少しあればいいと思います。

野原　そういう努力をしてもまだまだ私立学校はお金が足りない。ただ、私学助成にどこまで頼っていいのか、それとも頼らないのか。

熊見　文部科学省の予算と都道府県知事裁量の予算があるわけですが、知事裁量の予算をできるだけ引き出して、私学助成を獲得していく。兵庫県の場合は私学がフロントランナーであるということを認識していただいています。行政を味方に付けていくことが大事だと思います。

鈴木　ポイントになるのは、私学のコンプライアンス、理事会のガバナンス機能についてわれわれが謙虚にいつも見ていくことだと思います。

そうでないと、なかなか信頼関係は生まれてきません。

植村　企業経営者としては、これをやりたいからどうしても補助が欲しい、なるほどそれならば補助しよう、そういう緊張関係の中でやらないと、ばらまき的ではやはりおかしいと思います。

野原　私学の立場からいうと、同じ親の子どもであるにもかかわらず、公立なら一人当たり八十九万円、私学は一人当たり三十数万円です。公平ということからも私学に対する助成は必要だと主張することはおかしくはありません。

植村　そのこと自体はおかしくはないと思います。ただ、私学をきちんと位置付けないといけない。公立に対しても申すべきことは言って、その上でバランスをとった平等な仕組みができればいいと思います。

教員力向上には研修が重要
採用は時間かけ人間性で判断

野原　次に教員力について。鈴木さんからお願いします。

鈴木　平成十六年度に二年続けて、かなり生徒数が落ちました。あれから七年、連続して生徒数が増え続けました。その原動力は教員一人ひとりの力の結集だと思っています。そして今年の三月十一日の東日本大震災による想定外の被害の中で、支えたのはやはり教員の力です。この教員力は、高め続けなくてはなりません。大事なことは教員の研修です。スキルを高めることも大事ですが、それ以上に大事なことは、教員として一人の人間としての資質を高めることです。ですから、日々の研修がとても大事になるわけです。

野原　企業も当然研修をされると思いますが。

植村　最近は、社員教育を外部機関に丸投げです。それでは本当の意味での研修にはならない。手づくりで、われわれの組織はこうだと言うことの研修が、結局は愛社精神になるし、お互いに納得したチーム力になります。

野原　では、教員を採用するときのポイントはなんですか。

熊見　授業を教えられる力は最低限必要ですが、人間性重視です。

鈴木　大学を出たばかりでは、授業がうまいという人はあまりいないと思います。それを高めていくのも研修です。熊見さんが言われた人間性ですが、かなり時間をかけて面接をしています。最後は、なんとなく感じるものがある、私の直感を一番大事にして、採用しています。

野原　採用した後、若い先生をどう育てているかを伺います。

鈴木　若い教員については、月に一度、一コマ、私の講話を一年間。それから日報を一年間、付けさせています。日報には、やったことを書くのではなくて、今感じていることを書きなさい、と言っています。そこに私が毎日コメントを書いています。最後は当人の授業をビデオに撮って渡します。また、折に触れ、先輩教員の授業を見なさいとも言っています。

熊見　同様に、先輩の授業を見なさいと言います。そして先輩にいろいろなことを聞けと。研修は、部署ごとにしたり、主任は必ず一年に一回は授業研修をやる、外部の研修で良いのがあれば必ず行かせています。

植村　企業の場合は、基本はＯＪＴ（On the Job Training）です。私どもの会社は、一年間はメンターを付けます。今の若い人たちは、分からないことを聞くことすらあまり得意じゃない。ですから、二～三年先輩のメンターを付けています。これは、メンターの方も成長します。

野原　さて、教員免許状更新講習についてはいかがですか。

鈴木　講習の内容はいろいろで、これが法的に位置付ける講習として適切なものなのか、疑問を持っています。ただ、刺激になることは大事だと思っています。

熊見　更新講習自体はする必要がないと思っていますが、失効するので行かせています。帰ってきた教員に聞きますと、勉強する機会があって良かったと言っていました。

野原　では、私学の先生の良さについては。

熊見　私学では校長が即判断して即実行できるところではないかと思います。

鈴木　私学の教員の良さは、公立と比べて特色を意識しているところだと思っています。私学は正しい少数決ができる組織でありたい、と思っています。例えば、話し合いの意見が、二、六、二に分かれたら、公立なら六の多数意見が採用されます。しかしその意見は特色がない。私学は、二の意見を採用して、これを推進していく力を持っていると思います。

野原　今日は長時間、ありがとうございました。

先輩の授業見せ若手を育成
企業ではメンター制採用

第15回
図書館を使った
調べる学習コンクール
～ 作 品 募 集 ～
主催：特定非営利活動法人（NPO）図書館の学校／財団法人 日本児童教育振興財団

きみのテーマは何？
図書館で調べてみよう！

■ 募集する作品
調べる学習部門
自分が興味を持ったテーマを、公共図書館や学校図書館を利用して調べ、まとめた作品
小学生の部 ／ 中学生の部
高校生の部 ／ 大人の部
子どもと大人の部
図書館活動部門
「図書館を利用した調べる活動」を支援した実践をまとめた作品
学校図書館の部
公共図書館の部

■ 募集スケジュール
作品の受付　2011年10月15日（土）～11月30日（水）〈当日消印有効〉
入選者発表　2012年1月上旬予定

■ 応募資格
小学1年生以上　どなたでもご応募いただけます

■ 詳細は、図書館の学校のホームページをご覧ください

第14回 私学受賞作品
文部科学大臣賞
調べる学習部門　中学生の部
『志命一崩シテナルモノカ』
麻布中学校3年　三浦颯人（東京都）
調べる学習部門　高校生の部
『砂漠から摩天楼へ―なぜドバイは経済成長できたのか―』
清教学園高等学校3年　尾川拓志（大阪府）
優秀賞
図書館の学校・日本児童教育振興財団賞　調べる学習部門　中学生の部
『世界地図に名を記す日本人　間宮林蔵』
慶應義塾普通部1年　油下知広（神奈川県）
図書館の学校賞　調べる学習部門　高校生の部
『日本において、妖怪と神を分けるものは何か』
関西学院高等部3年　家田広海（兵庫県）
日本児童図書出版協会賞　調べる学習部門　中学生の部
『たいへん永らくおまたせしました！ ～古代エジプトは神中心の社会だった!?～』
清教学園中学校3年　高橋梨紗（大阪府）
活字文化推進会議賞　調べる学習部門　高校生の部
『安房直子―統（つなぐ）―』
山梨英和高等学校2年　望月麗（山梨県）

お問い合せは、NPO図書館の学校事務局 まで
TEL：03-3943-0666　FAX：03-5978-3291
ホームページ http://www.toshokan.or.jp/（過去の受賞作品の一覧も掲載されています）

第32回 ホームソーイング 小・中・高校生作品コンクール 応募要領

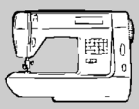
Ⅰ 応募部門
(1) 小学生の部（5、6年生）作品の種類による部門は設けません（小物・インテリア作品、衣服作品、リメイク・デコ作品全てを含みます）
(2) 中学生の部　①小物・インテリア作品部門　②衣服作品部門　③リメイク・デコ作品部門
(3) 高校生の部　①小物・インテリア作品部門　②衣服作品部門　③リメイク・デコ作品部門

Ⅱ 応募作品
●作品は、ミシンを活用して製作したもので、自作で未発表のものとします。
●Ⅰの応募部門「リメイク・デコ作品部門」は、既製品又は自作の物を利用してミシンでリメイクやデコレーションした作品とします。

Ⅲ 応募方法
●下記の様式により白布に必要事項を記入し作品に縫い付けて下さい。ツーピース等、作品が分かれているもの、付属品のあるものは、作品全てに白布を縫い付けて下さい。
●作品の写真（タテ8㎝×ヨコ10㎝程度）を同封して下さい。
●Ⅰの応募部門「リメイク・デコ作品部門」に応募の場合は、「リメイク・デコ作品部門応募用紙」を使用し写真を貼付して下さい。
●原則として在籍校で一括し、応募作品一覧表とともにお送り下さい。
★作品送付上の注意
作品は出来る限り送付控えが残る方法で送付下さい。
（普通郵便・メール便で送られて来た場合は、受領確認書をFAX致しますので、作品送付後1週間以内に確認書が届かない時は、ご連絡下さい。）
白布様式（タテ8㎝×ヨコ10㎝）
←縫い付け部分（手縫い）
●氏名
●学校名、学年
●応募部門名
←下から2㎝位、空欄にする

Ⅳ 審査・発表及び表彰
審査は、学識経験者により構成された審査委員会で平成23年12月に行い、入賞した場合は平成24年1月に応募校へご通知いたします。入賞者名等の発表・表彰式は、3月4日「ミシンの日」・1～3月ミシンの月にあわせて行います。

Ⅴ 賞と副賞
(1) 作品賞
①最優秀賞　②アイデア賞　③優秀賞　④佳作賞　⑤努力賞　⑥特別賞（全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞）
※最優秀賞には経済産業大臣賞の授与を予定しております。※最優秀賞受賞者在籍校には、感謝状を贈呈いたします。
※リメイク・デコ作品部門での最優秀賞はありません。※作品賞受賞以外の応募された方には参加賞を贈呈いたします。
(2) 学校賞
ホームソーイング振興最優秀校賞（小学校、中学校、高等学校各1校）
※ホームソーイング振興最優秀校賞には文部科学大臣賞の授与を予定しております。



Ⅵ 作品等の返却
作品は、平成24年2月頃に参加賞を添えて返却します。ただし、入賞作品につきましては、「ミシンの日」等の主催者が行う事業に使用させていただく場合、返却は遅くなりますので予めご了承願います。なお、作品以外の応募用紙等については、返却致しません。

Ⅶ 応募先・お問合せ先
〒105-0003　東京都港区西新橋1-14-12　不二ビル　社団法人日本縫製機械工業会　「第32回作品コンクール」係
TEL:03-3597-0470　FAX:03-3597-0477
E-mail:info@jasma.or.jp

Ⅷ 締切
平成23年11月10日（木）（当日消印有効）

主　催：社団法人日本縫製機械工業会
後援（予定）：経済産業省／文部科学省／全国小学校家庭科教育研究会／全日本中学校技術・家庭科研究会／全国高等学校長協会家庭部会
協　賛：社団法人日本ホビー協会／全国ミシン商工業協同組合連合会
協力会員：アイシン精機株式会社／株式会社ジャガーインターナショナルコーポレーション／蛇の目ミシン工業株式会社／JUKI株式会社／ブラザー工業株式会社
企業協力：クロバー株式会社／株式会社コッカ／株式会社フジックス
※応募に際しての個人情報は、主催者が行う各種事業活動（連絡事務、入賞者の公表、広報活動等）に利用するものであり、他の目的には利用しません。